

# 九州大学経営協議会議事録

日時：平成24年3月15日（木）13：00～15：10

場所：九州大学本部第一会議室

出席者：（略）

## 【経営協議会の概要説明】

経営協議会の法律上の位置づけ等について説明があった。

## 【審議事項等】

### 1 平成24年度計画について

平成24年度計画について説明があり、審議の結果、これを議決した。

なお、今後、役員会の審議を経たうえで文部科学省へ届け出る旨の説明があった。

その際、以下のような意見等があった。

- ・ 社会人が学びたいという思いになった時に学ぶことができるということは、一つの社会還元だと思うが、実際には、仕事を一度辞める、休職する等しない限り、学び直すことが難しい。この点においては、まだ工夫する余地があるのではないか。
- 重要な点であり、様々な工夫は行っている。例えば、アフターファイブに対応できるビジネススクールを設置している。また、大学院博士課程においては社会人学生の比率は相当高く、多くの人が仕事を続けながら学んでいる。さらに、平成23年4月に設置したライブラリー専攻においては、図書館職員が学生であったり、逆に図書館職員が指導を行っているということもある。今後も社会人学習の対象となり得る分野と需要のバランスに留意しつつ工夫していきたい。

### 2 早期退職制度の導入に伴う職員の退職手当の支給基準の変更について

教員の早期退職制度の導入に伴う職員の退職手当の支給基準の変更について説明があり、審議の結果、これを議決した。

### 3 給与の支給基準の改定について

「国家公務員の給与改定及び臨時特例に関する法律」の概要及び人事院勧告を踏まえた本学における給与の支給基準の改定について説明があり、審議の結果、これを議決した。

### 4 国立大学法人九州大学予算編成方針等について

平成24年度の予算編成方針等について説明があり、審議の結果、これを議決した。

その際、以下のような意見等があった。

- ・ 法人運営活性化支援分の配分額について、各部局に差はつけないのか。
- 部局別の採点もしており、当該採点結果に基づく傾斜配分も一部行っている。
- ・ 大学改革促進係数 $\Delta 1.6\%$ のうち $\Delta 0.6\%$ については病院のみで対応するのか。
- 病院での対応となる。ただし、病院収入の増加等により、平成25年度以降には附属病院運営費交付金を受領する必要がなくなるよう、鋭意努力しているところである。当該交付金の交付を受けない場合、大学改革促進係数は $\Delta 1.3\%$ に減少する。

5 平成24年度資金管理方針について

平成24年度の資金運用計画について、運用資金、運用期間等及び運用益の使途の説明があり、審議の結果、これを議決した。

6 九州大学統合移転事業について

キャンパス統合移転計画の概要及び伊都キャンパスへの移転に伴う箱崎キャンパス等跡地の活用について、現在の構想案、検討の進捗状況等に関する報告があった。

その際、以下のような意見等があった。

- ・ 時間の経過とともに移転を巡る状況も変わってくるので、様々な面で大変だろうと思う。
  - ・ 箱崎キャンパス等の跡地の活用の仕方が、将来の福岡市の発展に大きく関わってくると考えている。
  - ・ 従来の開発は産業的観点のものが多かったが、福岡の今後の発展として、生涯学習など教育的な面も含めて福岡の街づくりの拠点となるような設計をしていただきたい。
  - ・ 首都機能の分散が不可欠であると思うが、当該機能の一部分を福岡で引き受ける、具体的にこのような土地もある、という考え方も大事ではないか。
  - ・ 首都機能の分散という点では、バックアップ機能としては福岡が一番ふさわしいのではないか。また、現在、首都に一元化している経済の一機能をもってこることも考えられる。ただし、福岡市では様々な公共施設の老朽化に伴う建替え時期が一斉に迫っており、市が主体となって施設を作るのは実際には難しい。街づくりの案に対し、一方では財源の確保が問題となってくるため、民間企業等の協力も得ながら進めていきたい。
  - ・ 跡地の売却は九大が行うのか。
- 九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会において検討した内容に沿って跡地利用を行う相手に対して、九大が売却することになる。それが移転の財源になる。
- ・ 本来は福岡市が一括購入した上で跡地利用のビジョンを策定するのがいいのではないか。一時的に苦勞するだろうが、将来にわたって大きな財産となる。
  - ・ 地元大手企業が購入し、整備していくやり方もあるのではないか。
  - ・ 九大が土地を保有したまま貸すことができればベストだと思うが。国土形成の観点から、福岡に国の機能をもってこることは大事であり、国が実施しないと難しい。
  - ・ 跡地を切り売りしてしまうと意味がない。福岡市は土地が狭いため、将来のことを考え、人口を集積させる、住替えを推進する等による街づくりが必要ではないか。
  - ・ 九大は地主という立場であるから主体的に意見を出していくべきである。
- 移転先の土地については全て取得することができており、いよいよ箱崎キャンパス跡地利用の検討という点に課題が絞られた。今後は福岡市等とも協力しつつ検討を進めていく所存である。

【その他】

1 第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2012 について

第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2012 の開催について案内があった。

2 次回の開催について

次回は平成24年6月21日（木）に開催予定である旨の案内があった。

【紹介】

今年度をもって任期満了により退任する理事及び監事の紹介があった。

【懇談】

会議後、九州大学の医歯薬における新たな取り組み等について説明があった。

（ 以 上 ）